

**全国県境地域研究会および
全国県境地域シンポジウムの
概要について**

平成 23 年 2 月

社団法人東三河地域研究センター

全国県境地域研究会について

1. 活動目的

県境地域は、地理的・歴史的な一体性を持ちながら、県境によって行政界が区分されることにより、総合的な地域づくりが困難な地域です。一方、人口減少、財政削減による地域整備では、従来の行政区域にかかわらず、資源の合理的利用と地域の特性を融合させた地域整備が必要となっております。

また、地方分権による市町村合併の促進、これに続き検討されている道州制は、我が国の地域区割りを大きく変えようとしております。こうした中で、県境地域は互いの地域力を総合化することにより、地域の活性化と特徴ある地域づくりを進める重要な時期にあると言えます。

個別の県境地域では、各々の地域連携や多様な地域活性化の実践を長期に亘って継続しており、各地域が独自の成果を上げつつあります。しかしながら自治制度変革という大きな変化に対しては、個別県境地域の活動では限界があります。

そこで、県境を越えた地域づくりを目指す全国の県境地域が互いの情報を交換し、共同した行動をとるために全国県境地域研究会を設立し、活動を行うことといたしました。

2. 設立時期

・平成14年11月

3. 主要事業

(1) 全国県境地域シンポジウムの開催

全国の県境地域が集まり、互いの情報を交換し共同した行動に発展させる場として、シンポジウムを開催します。シンポジウムは、全国の広域ブロックごとの開催を目標として、政策アピールのために、東京での開催を検討します。

(2) 県境地域連携に関する情報集の発信

全国県境地域に関する情報集を作成することにより、県境地域の相互連携を深めます。また、情報を提供することで、各県境地域の政策立案を支援します。

(3) 県境地域整備に関する調査研究の実施

学会等の場を活用して、あまり認知されていない県境地域形成の必要性をアピールして行きます。また、県境地域連携手法の開発を目ざします。

4. 事務局

社団法人東三河地域研究センターに研究会事務局を置く。

全国県境地域シンポジウムの開催実績

1. 第1回 豊橋大会（愛知県豊橋市）

(1) 日時

平成16年4月23日（金） 13:30～16:30

(2) 会場

愛知県豊橋市 豊橋グランドホテル

(3) テーマ

「21世紀における県境地域の新たな地域づくり～県境地域の課題と連携活動について～」

(4) プログラム

①基調講演

「県境と旅」 『旅の手帖』編集長 中村 直美氏

②研究報告

「全国県境地域連携活動の実態報告」 社団法人東三河地域研究センター 戸田 敏行

③パネルディスカッション

パネリスト

米内 達郎氏（南部州地域・南部州デザイン会議）

中島 衆雄氏（両毛地域・両毛5市商工会議所協議会）

本島慎一郎氏（三遠南信地域・三遠南信ひとネットワーク）

山下 隆司氏（飛越地域・日本の心のふるさとを守り育てる飛越協議会）

中村 秀男氏（福滋県境地域・福滋経済団体協議会）

柳井 和彦氏（萩・増田地域・島根山口県境地域共同活動推進会議）

田原 寛文氏（南九州中央地域・九州南部川と森の県際交流推進会議）

コーディネーター

藤田 佳久氏（全国県境地域研究会委員長・愛知大学文学部教授）

(5) 参加者数 150名

(6) 主催 全国県境地域研究会、社団法人東三河地域研究センター

(7) 後援 三遠南信地域整備連絡会議、三遠南信地域ネットワーク会議
三遠南信地域経済開発協議会、日本商工会議所

行政の壁超え連携強く

全国から県境7地域 豊橋でシンポジウム



「全国県境地域シンポジウム」で話した県境地域7の課題を話し合った。県境地域研究会を発足させた。事務局とつなげた。事務局は、南知多(青森・岩手・秋田)▽西尾(栃木・群馬)▽三河(長野・静岡・愛知)▽飛越(岐阜・富山)▽福浜(福井・滋賀)▽葦・益田(徳島・山口)▽大口・伊予・始良(北前)鹿

県境を越えた連携で地域を活性化、全国に元気をと、初の全国県境地域シンポジウム21世紀における県境地域の新たな地域づくり(全国県境地域研究会、東三河地域研究会)主催が23日、豊橋ランドホテルで約160人が出席し、基調講演、研究報告、総論、東北から九州まで全国7県境地域の地域づくりの取り組みの代表者がパネリストに出演した。「県境を越え、種々の幅も真ん中で変わってしまおう行政の壁を地域共通の課題や連携活動の必要性を話し合った。

県の境の地域は中心部、つながりがある隣接地域、城の底力を発揮しにくい状況にある。市町村合併で、県境を越えて合併を目指す自治体もあり、道州制議論も高まっている。東三河地域研究会、三河南尾地域の研究会をへして昨年、全国

県境地域研究会を発足させた。事務局は、南知多(青森・岩手・秋田)▽西尾(栃木・群馬)▽三河(長野・静岡・愛知)▽飛越(岐阜・富山)▽福浜(福井・滋賀)▽葦・益田(徳島・山口)▽大口・伊予・始良(北前)鹿

東日新聞 2004年(平成16年)4月24日(土)



基調講演する旅の手帖編集長、中村さん

道州制見据え連携

「県境地域」集いシンポジウム

県境の壁を越えて、新しい連携を築き、将来の「旅の手帖」が実現し、道州制を推進する。全国で現在、70余の地域が連携を越えて地域づくりについて話し合った。その一環として、全国7県境地域の代表者が、東三河地域研究会の事務局を主催し、21世紀における県境地域の新たな地域づくりの課題を話し合った。県境を大きく開き、連携を



県境地域づくりの課題を話し合った県境シンポジウム

「旅の手帖」の中村直樹編集長が「県境と旅」と題して基調講演。道州制を推進する。全国7県境地域の代表者がパネリストに出演し、道州制議論も高まっている。東三河地域研究会、三河南尾地域の研究会をへして昨年、全国

なくならぬ問題点や、県境地域同士の「横のつながり」を深めて解決するものも話し合った。課題が出た。今回のよう

2. 第2回 足利大会（栃木県足利市）

（1）日時

平成17年10月18日（火） 13：30～17：00

（2）会場

栃木県足利市 足利商工会議所本部

（3）テーマ

「21世紀・地方分権化における県境地域の新たな展開 ～わたらせ発・元気地域づくり～」

（4）プログラム

①基調講演

「道州制と県境地域発展のあり方」 前大分県知事 平松 守彦氏

②研究報告

「県境地域連携と市町村合併」 社団法人東三河地域研究センター 戸田 敏行

③パネルディスカッション

パネリスト

有馬 義一氏（福滋県境地域・福井県敦賀商工会議所会頭）

清水 聖義氏（両毛地域・群馬県太田市長）

牧野 光朗氏（三遠南信地域・長野県飯田市長）

吉山 康幸氏（伊万里・北松地域・長崎県松浦市長）

コーディネーター

藤田 佳久氏（全国県境地域研究会委員長・愛知大学文学部教授）

（5）参加者数

200名

（6）主催

全国県境地域研究会、両毛五市商工会議所協議会

（7）後援

日本商工会議所、国土交通省

平松大分県知事が基調講演

足利で全国県境地域シンポ

府を地方行政機関とする

県境を越えた地域づくりや広域連携について考える「第2回全国県境地域シンポジウム」（両毛域シンポジウム）（両毛五市商工会議所協議会など主催、国交省など後援）が18日、足利市通3の足利商工会議所で開かれた。

演「両毛栃木、群馬県」地域、伊万里松浦地域「長崎、佐賀県」、三遠南信地域（愛知、静岡、長野）、「福滋地域（福井、滋賀県）」の首長や商工会議所会頭によるパネルディスカッションなどがあ

った。

平松氏は、「道州制と県境地域発展のあり方」と題して講演し、国の出先機関の「総合行政庁」と現在の県の集合体の「道」からなる「道州政



講演する平松・前大分県知事

「ローカルからグローバルの発想を」



自治体リーダーらによるパネルディスカッション

平松氏は、自身が推進してきた「一府一県」をモデルとしながら、「分権」を移譲する「地方分権の受け皿」として自立するため、グローバルに考え、ローカルに行動することが大事だと述べた。



基調講演する平松前大分県知事

足利で全国県境地域シンポジウム開く

両毛5市構想にはまだ「時間」

広域連携いには行政のカベ

県境を越える市町村合併や道州制導入が検討される中で、昨年、愛知県豊田市で開かれた第1回全国県境地域シンポジウムに続き、第2回シンポジウムが、18日、足利商工会議所で開催された。21世紀、地方分権化を目指す県境地域の新たな展開も打ち出す。両毛域シンポジウムというテーマで平松前大分県知事が基調講演し、約200人が参加した。基調講演は、両毛域シンポジウムというテーマで平松前大分県知事が基調講演し、約200人が参加した。基調講演は、両毛域シンポジウムというテーマで平松前大分県知事が基調講演し、約200人が参加した。

平松氏は、自身が推進してきた「一府一県」をモデルとしながら、「分権」を移譲する「地方分権の受け皿」として自立するため、グローバルに考え、ローカルに行動することが大事だと述べた。

「一府一県」をモデルとしながら、「分権」を移譲する「地方分権の受け皿」として自立するため、グローバルに考え、ローカルに行動することが大事だと述べた。

3. 第3回 延岡大会（宮崎県延岡市）

(1) 日時

平成18年10月26日（木）13:00～17:00

(2) 会場

宮崎県延岡市 ホテル メリージュ延岡

(3) テーマ

「神話・伝説の郷からはじまる新たな地域物語

～道州制を見据えた県境地域の連携・交流～

(4) プログラム

①基調講演

「道州制と九州独立」 前大分県知事 平松 守彦氏

②研究報告

「全国の県境地域連携」 社団法人東三河地域研究センター 戸田 敏行

③パネルディスカッション

パネリスト

米内 達郎氏（南部州地域・南部州デザイン会議）

橋本 欣也氏（南九州中部地域・九州南部川と森の県際交流推進会議運営委員）

橋本 正恵氏（大分・宮崎県境地域・佐伯市観光協会副会長）

首藤 正治氏（九州中央地域・宮崎県延岡市長）

戸田 敏行氏（三遠南信地域・東三河地域研究センター）

コーディネーター

藤田 佳久氏（全国県境地域研究会委員長・愛知大学文学部教授）

(5) 参加者数 250名

(6) 主催

全国県境地域研究会、九州中央地域連携推進協議会

宮崎県北部広域行政事務組合、延岡市

(7) 後援

国土交通省、日豊経済圏開発促進協議会、日本商工会議所

互いの資源活用を 官民協働が必要

県境連携へ延岡で全国シンポジウム

道州制見据え論議

県境を越えた地域づくりを考える第三回全国県境地域シンポジウム（全国県境地域研究会など主催）が二十六日、宮崎県延岡市であった。九州では初めての開催で、宮崎、鹿児島、大分のほか、東北や中部地方の関係者らが参加し、道州制を見据え、県境地域の連携や交流のあり方について意見を交わした。



県境を越えた地域づくりについて論議したシンポジウム 26日、宮崎県延岡市

シンポでは、前大分県知事の平松守彦氏が「地域自立と道州制」と題して講演。平松氏は「本町の町づくりのために地方への権限・税源移譲が不可欠だが、県境がなくなる道州制において、三十万人程度の拠点地域をいかに形づくっていくかが重要」と話した。

その後、宮崎県側と連携して観光振興に取り組む大分県佐伯市観光協会副会長の橋本正恵氏や九州中央地域連携推進協議会副会長の首藤正治・延岡市長ら五人が討議。東三河地域研究センター（愛知県豊橋市）事務理事の戸田敏行氏は、県境を越えた地域づくりの利点を今までなかった資源を活用でき、地域の多様性と魅力が高まると強調。首藤市長は「防災協定など実態に合わせてより暮らしやすい地域づく

りも可能」と話した。宮崎、熊本県境の自治体と連携する鹿児島県大口市職員の橋本欣世氏が「行政だけでなく、いかに民間を巻き込むかがカギ」と課題を挙げると、橋本正恵氏は「行政が協

2006.10.27 西日本
力してくれると計画が大きく前に進む」として、行政と民間の「協働」の必要性を訴えた。



県境地域の活性化について議論を交わしたハネル・ティスカッション（ホテルリジー延岡）

道州制見据え連携を 延岡市

全国県境地域シンポジウム 平松前大分県知事ら講演



都道府県を越え、九州一北海道などの道や、が二十六日、延岡市開と県境を越えた連携の重要性を再確認した。県境地域の活性化に向けて活動する「全国県境地域研究会（神戸営業所）が、豊橋、足柄市に次いで道州制の議論を盛んな九州で初めて開いた。県北各市町村や、熊本県をから自治体関係者ら約二百人が参加した。「一村一品運動」で知られる平松前知事は、地方が目指すための戦略として国からの分権（権限移譲）の分権（財

が「圏域は全国有数の観光地があるが交通網が乏しい」と九州道自働車道延岡線などの早期整備を主張。県境を越えて延岡市と「伊勢・海路」に取り組み佐伯市観光協会の橋本正恵副会長は「地域を盛り上げるエネルギーを待っている。観光的に道州制は大賛成」と述べた。

道州制をめぐり、九州市長会は今月十二日、今後十年以内をめぐり道州制の実現を目指す「九州府構想」の報告書を正式決定。九州地方知事会と地元経済団体などから九州地域戦略会議は二十四日、九州での道州制のあり方を検討していた道州制推進委員会の報告書を手本としている。

4. 第4回 敦賀大会（福井県敦賀市）

(1) 日時

平成19年10月20日（土） 13:30～17:00

(2) 会場

福井県敦賀市 きらめきみなと館

(3) テーマ

「みなとまち『つるが』へと続く、新・日本海街道物語
～新しい時代を迎えた県境地域の交流創出～」

(4) プログラム

①基調講演

「地域観光の将来像」 東海旅客鉄道株式会社 相談役 須田 寛 氏

②研究報告

「道州制と全国県境地域の動向」 社団法人東三河地域研究センター 戸田 敏行

③パネルディスカッション

パネリスト

小原 豊明 氏（三圏域連携懇談会 岩手県 二戸市長）

板橋 敏雄 氏（両毛五市商工会議所協議会 栃木県 足利商工会議所会頭）

山下 隆司 氏（飛越協議会 日本の心のふるさとを守り育てる飛越協議会アドバイザー）

杉本 隆晴 氏（九州中央地域連携推進協議会 宮崎県 延岡市副市長）

河瀬 一治 氏（福滋県境交流促進協議会 福井県 敦賀市長）

戸田 敏行 氏（全国県境地域研究会 東三河地域研究センター）

コーディネーター

藤田 佳久氏（全国県境地域研究会委員長・愛知大学文学部教授）

(5) 参加者数 200名

(6) 主催 全国県境地域研究会、社団法人東三河地域研究センター、敦賀商工会議所

(7) 共催 福滋県境経済団体協議会

(8) 後援 日本商工会議所、国土交通省

道州制へ「広域的連携を」

敦賀で県境地域シンポ

愛知県豊橋市の東三河シンポジウムが二十日、敦賀市のきらめきみなと館で開かれ、関東、中京、九州などの地域研究センター役員や商工会議所会頭らが、道州制について意見を交換した。

愛知県豊橋市の東三河地域研究センターの戸田敏行常務理事、福滋県境交流促進協議会の河瀬一治敦賀市長ら七人が、道州制に向けた官同士、民間同士それぞれの連携な

どについて意見が出た。戸田氏は、大地震に備えた民間非営利団体(NPO)のつながりや、自治体を超えたきずなづくりが大切だと主張した。河瀬市長は、J R直流

化による京阪神への新快速列車の乗り入れを例に、広域的な観光開発の重要性を説き、「自治体

が力を合わせ、お互いのプラスの点を生かすことが大事。都市圏の強い力と連携することも魅力

で、新快速列車を名古屋方面へつなげる考えもある」と話した。

基調講演はJ R東海相談役の須田寛氏が「地域観光の将来像」をテーマに行った。須田氏は既存の観光名所や特産物を新たな角度から見ることの大切さを訴え、敦賀名物のとろろ昆布を例に挙げ「特産物として売り出す

(伊藤隆平)

行政域を越えた交流について議論した全国県境地域シンポジウム＝20日、敦賀市のきらめきみなと館



敦賀で全国県境地域シンポ 連携し活性道探る

河瀬市長「交通網整備へ促進」

道州制をにらみ県境を越えて登壇し「嶺南と北滋賀」題し、敦賀商工会議所百越えた交流について議論に加え岐阜とも連携し、周年記念事業の一環で開く第四回全国県境地域交通網の整備などを推進する第四回全国県境地域シンポジウムが二十日、きらめきみなと館で開かれた。行政域を越えた交流を展開している全国の自治体や経済界の関係者が集結。本県からは福滋県境交流促進協議会代表の河瀬一治敦賀市長がパネリストとし「新・日本海街道物語」と

に学びあい新戦略を練り取り組みや課題を発表していき」とあいさつ。河瀬市長は「昨秋のJ Rこの後J R東海相談役の須田寛氏が「新しい観光をめざして」と題して基調講演。国内外でポータルレスの連携が求められていると指摘し「平和産業の観光は地域の発展に寄与する。県境地域は広域観光の橋渡し役」として重要な役割がある」とエールを送った。「県境地域の対外戦略と交流ネットワーク」をテーマにした討論会では、河瀬市長や岩手県二戸市の小原豊明市長ら全

勢を示した。

5. 第5回 飛越大会（富山県南砺市）

(1) 日時

平成20年10月30日（木） 13:00～17:00

(2) 会場

富山県南砺市福野文化創造センターヘリオス

(3) テーマ

「世界トップレベルの観光地をめざして」

(4) プログラム

①基調講演

「世界トップレベルの観光地をめざして」

JTIC.SWISS 代表 山田桂一郎氏（スイス・ツェルマット、国土交通省観光カリスマ）

②パネルディスカッション

「県境地域の観光活性化」

パネリスト

山田 桂一郎氏

石村 隆男 氏（NPO法人大山中海観光推進機構理事長）

中谷 伸一 氏（利賀ふるさと財団理事長、観光カリスマ）

藤田 佳久 氏（全国県境地域研究会委員長・愛知大学文学部教授）

コーディネーター

戸田 敏行 氏（全国県境地域研究会 東三河地域研究センター）

(5) 参加者数 150名

(6) 主催 日本心のふるさとを守り育てる飛越協議会、全国県境地域研究会、
社団法人東三河地域研究センター、南砺市

(7) 後援 国土交通省、日本商工会議所、富山県、岐阜県

第5回大会（富山県南砺市）新聞記事

富山
（金）南砺で全国県
10.31 境地域シンポ
H20. 全国県境地域シンポ
20. シウム飛越大会は三十
日、南砺市福野文化創
造センターヘリオスで
開かれ、市内外の約百
五十人が県境を越えた
広域観光の活性化策を
探った。

シンポジウムは富山
県内では初めてとな
る。石井隆一知事、溝
口進市長のあいさつに
続き、「県境地域の観
光活性化」をテーマに
パネル討論が行われ、
利賀ふるさと財団の中
谷信一理事長は「東京
・武蔵野第二小のセカ
ンドスクールや宝仙学

富山・岐阜県境の
観光振興話し合う
南砺でシンポ



県境地域の観光振興について意見交換するパネル
リストら＝南砺市福野文化創造センターヘリオスで

富山・岐阜県境の
観光振興話し合う
南砺でシンポ
基礎講演で、スイス

を話し合う「にむ国土交通省観光
推進機構」（鳥取県米子
市）の石村隆男理事長
が、観光客に時間
を消費させる仕組み作
りや質の高いサービス
提供、地域を学ぶ大切
さを話した。

パネル討論では、鳥
根、鳥取県境の観光活
動に取り組み特定非営
利活動法人（NPO法
人）「大山中海観光推
進機構」の石村隆男理事長
が、観光客に時間
を消費させる仕組み作
りや質の高いサービス
提供、地域を学ぶ大切
さを話した。

「日本の心の
ふるさとを守
り育てる飛越
協議会」（事
務局・富山
県）など主
催。西隣の観光ボラン
ティアや観光協会、行
政の関係者ら約百五十
人が出席した。

県境を越えた観光の広域連携について意見を
交わしたパネルディスカッション



福野 一流観光地へシンポ

「世界トップレベルの観光
地をめざして」をテーマに掲
げ、第五回全国県境地域シン
ポジウム飛越大会が三十日、
南砺市福野文化創造センター
で開かれた。全国各地で観光
の広域連携などに取り組んで
いる専門家らが、県境地域の
観光活性化について意見交換
した。

日本の心のふるさとを守り
育てる飛越協議会、全国県境
地域研究会、東三河地域研究

広域連携で魅力向上

北日本
10.31

センター、南砺市が主催、国
土交通省、日本商工会議所、
富山、岐阜両県が後援した。
スイス南部のツエルマツト
でJITIC・S・WISS（日
本語インフォメーションセン
ター）を設立し、代表に就いて
いる山田桂一郎さんが基調講
演。「観光地としてスイスの
人気が高いのはスイスらしさ
があるからだ。日本の観光地
も固有の地域性、豊かさを磨
き、魅力を高めなければなら
ない」と強調した。

パネルディスカッションは
山田代表のほか、中谷信一利
賀ふるさと財団理事長、石村
隆男NPO大山中海観光推進
機構理事長、藤田佳久愛知大
学教授がパネリストとなり、
戸田敏行同研究センター常務
理事がコーディネーターを務
めた。

広域連携によって観光客が
増えた各地の事例などを紹
介。中谷理事長は「高齢の方
々の普段の何気ない生活の中
に日本らしさの原点があるか
もしれない。魅力として磨い
ていく取り組みに力を注ぎたい」と語った。

開会式で石井知事、神野信
郎同研究会長、溝口南砺市長
があいさつした。三十一日は
南砺市井波地域の八日町遊
覧、岐阜県の白川郷などを視
察する。

6. 第6回 北緯40° ナニャトヤラ連邦（八戸・久慈・二戸地域）大会（青森県八戸市）

（1）日時

平成21年9月25日（木）13：30～17：00

（2）会場

青森県八戸市 八戸グランドホテル

（3）テーマ

「県境地域の食文化を活かした地域間交流」

（4）プログラム

①基調報告

「全国県境地域の動向と食文化による交流」

戸田 敏行 氏（社団法人東三河地域研究センター）

②基調講演

～ご当地グルメ（食）のネットワークが時代を創る～

北緯40° ナニャトヤラ連邦「北のコナモン食文化」の秘めたる可能性

木村 聡 氏（八戸せんべい汁研究所事務局長）

③パネルディスカッション

「コナモン食文化を活かした地域間交流」

パネリスト

熊谷 真菜 氏（日本コナモン協会会長）

太田 俊一 氏（久慈地域食産業ネットワーク企画委員会委員長）

小松 遊平 氏（二戸地域食産業ネットワーク会員）

高橋 政美 氏（足利商工会議所専務理事）

コーディネーター

藤田 佳久 氏（全国県境地域研究会委員長・愛知大学文学部教授）

アドバイザー

木村 聡 氏（八戸せんべい汁研究所事務局長）

（5）参加者数 250名

（6）主催 全国県境地域研究会、三圏域連携懇談会、（社）東三河地域研究センター

（7）後援 国土交通省、日本商工会議所、青森県、岩手県



食文化生かし交流を

全国県境
地域シンポ
活性化へ250人議論

八戸

第6回全国県境地域シンポジウムが25日、八戸グランドホテルで開かれた。全国各地から約250人が参加し、「食文化」をテーマとした講演やパネルディスカッションなどを

通じて、県境地域の活性化について議論を深めた。

県境地域のネットワーク化を図ろうと、全国県境地域研究会（神野信郎会長）が2004年から毎年、実施している。青森県内での開催は初めてで、八戸、久慈、二戸の三圏域連携懇談会の関係者らも出席した。

冒頭、神野会長は「県境から新しい地域づくりを考えることは大変意義深い」とあいさつ。三圏域連携懇談

「食文化」をテーマに活性化の方策を探った全国県境地域シンポジウムは25日、八戸グランドホテル

会座長の小林眞八戸市長が「県境地域が知恵を出し合い、連携していくことで活性化を図っていきたい」と抱負を述べた。

パネルディスカッションでは、4人のパネリストが「コナモン（粉物）食文化を生かした地域間交流」をテーマに意見交換。

「ホヤやコンブなど海産物を粉末にして『海のコナモン』も作ってはどうか」（太田俊一・久慈地域食産業ネットワーク企画委員会委員長）「粘り強く情報発信することが大切だ」（小松遊平・二戸地域食産業ネットワーク会員）など、活発に意見が出された。

このほか、全国県境地域研究会事務局の東三河地域研究センター（愛知県豊橋市）の戸田敏行常務理事が、全国の県境地域の食文化

交流について報告。八戸せんべい汁研究所の木村聡事務局長は、来年1～3月に三圏域で開催される「北のコナモン博覧会」に向けた取り組みを紹介した。

「食文化」をテーマに活性化の方策を探った全国県境地域シンポジウムは25日、八戸グランドホテル

デーリー東北 2009.09.26

7. 九州県際サミット（九州経済フォーラム共催・協力）

（1）日時

平成23年2月2日（水） 13：30～16：00

（2）会場

福岡県福岡市（株）九電工 福岡支店 1階 多目的ホール

（3）プログラム

①基調講演

「県境を越えた地域づくり」

戸田 敏行 氏（社団法人東三河地域研究センター）

②パネルディスカッション

パネリスト

平安 正知 氏（福岡県小郡市長）

飯干 辰己 氏（宮崎県五ヶ瀬町長）

隈元 新 氏（鹿児島県伊佐市長）

コーディネーター

戸田 敏行 氏（社団法人東三河地域研究センター）

③政策提言

（4）参加者数 100名

（5）主催 九州経済フォーラム

（6）共催・協力 全国県境地域研究会、社団法人東三河地域研究センター

道州制の予行演習

仮想「九州議会」で議論



「バーチャル州議会」は高速交通ネットワークの整備や外国人就労支援なども議論した

県境超え課題解決を

首長や
経済人 救急医療や人材育成

九州経済フォーラム(長門石原進J&R九州会長)は2日、道州制を想定したバーチャル(仮想)九州議会を福岡市で開いた。熊本県の蒲島郁夫知事が仮想知事、九州7県の自治体関係者や企業経営者など7人が仮想議員になり、九州が一つになって取り組むべき政策を議論した。

離島や半島、中山間地域の医療問題について、大分県在伯市の西嶋泰義市長などは、ドクターヘリの運用や医師不足対策を九州全体で進めるべきだと発言。熊本県に接する高崎県五ヶ瀬町の飯干

ミットに移り、県境を持つ市町長を中心に、県境地域の悩みや解決策を出し合った。県境を挟んで道路の幅や土地利用が

教育分野では、小中学校の外国語教育に韓国語や中国語を取り入れることをはじめ、九州ならでは人材育成に賛成意見が相次いだ。蒲島知事は九州と経済規模が同じオランダ、スウェーデン、スイスの共通点として、革新的な政策への挑戦のGNP(国民総生産)より国民の幸

れたが、隣接する自治体と繋がるために、自治体と民間が協力して九州の中央部にシンクタンクをつくることを提案。参加した市町長は九州県際サミットの継続開催の県際地町で開く。